

Inter BEE 2021 事前メッセージ

2年ぶりの会場開催となるInter BEE。出展に慎重になる社もあって、例年より規模は小さい。さらにコロナ対策で、「密」を避ける運営も求められる。とはいえ、各社のシステム機器展示を見ながら話ができる機会に胸が弾む。「逢える」チャンスを生かしたい。会期(11月17日～19日)直前のInter BEEで、編集部として注目するメッセージをまとめた。

(企画担当:吉井 勇・本誌編集部)

【特集構成】

- Inter BEEの一番星! 「IP PAVILION」準備レポート
- NHK新技術局長 寺田健二氏インタビュー
「NHK技術陣が切り開く展望と考え方」
- NHK「8K文化財プロジェクト」
「ゲームエンジン」の活用と「リアルタイムCG」の立ち位置
- プレゼン付き対談(上) 米のテッド若山氏×欧の園田公一氏
「コロナ禍でも加速する米・欧の放送ビジョン」
- TVer代表取締役社長 龍宝正峰氏に聞く
「TVerの現在地と民放キー同時配信の対応」

Inter BEEの一番星!

ベンダー約20社による最強デモ「IP PAVILION」の準備

2018年に始まった「IP PAVILION」。初回はベンダー数社でIPソリューションを知るオープンなデモの実現という心意気で始め、今回で4回目となる。放送システム技術の次世代は、誰もが「IP化」だと指摘する。そのIP技術を実感できるIP PAVILIONは、「Inter BEEの一番星」だろう。

今回の取り組みは6月から準備が始まり、ベンダー各社がVideo/Audio、ネットワーク/5G、PRの3分科会に分かれ並行して動き、10月からのシステム連携テストを2グループで行ってきた。

2グループのそれぞれは、神奈川・佐江戸のパナソニック事業場でグループPが、神奈川・厚木のソニー厚木TECでグループOBVANが動き、最終のセットアップとテストをFOR-A佐倉研究開発センターで11月に行い、幕張メッセへ搬送する。

この準備期間の長さにも今年の特徴を見る

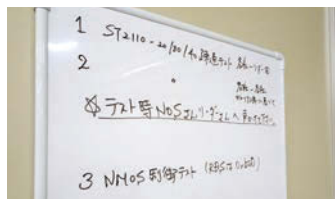
ことができる。その理由をパナソニック コネクティッドソリューションズ社・豊福哲之氏は「コロナ感染を防ぐため、室内に入る人数を上限20人とするためです。他の準備も同様で、少人数で進めていく段取りです」と話す。作業の進め方について、セイコーソリューションズ・長谷川幹人氏は「IP接続によって映像と音声のデータが確実に伝送しているかを個々の機器間で確認し、その次に全体のマトリックス対応の確認へ作業を進め

ます」と説明する。初回からシステムづくりを担当するソニーマーケティング・池田俊樹氏は「初めころは『IPアドレスの設定』の理解もあやふやなところもありながらも、一歩ずつ経験を積み重ねてきたことで、IP用語で共通に

● グループPの準備



機器の連携確認はモニターやPCでの設定操作が多い



全体で集合した作業ができないために作業の段取りはボードで連絡

●2人の助言者が来場



中央こちら向きがNHK北島正司氏



上・左端がNICT遠峰隆史氏

会話ができるようになってきました」と話す。また、標準規格が定まっているが、「各社で規格の解釈に違いがあり、不具合もあります。その場合、互いに考え方を伝え、内容を整理していくというコミュニケーションができるようになってきています」と、池田氏はIP PAVILIONが

果たす「場」としての役割を強調する。

この設営準備の現場に、2018年の国内初のマルチベンダーによる相互接続検証に取り組んだNHK・北島正司氏と、ネットワーク業界のイベントInterop Tokyoで「ShowNet」デモ展示のシステムデザインを

担うチームリーダーの情報通信研究機構・遠峰隆史氏の2人が駆けつけた。担当者たちへのアドバイスや意見交換を通して励ましてくれた。

IP PAVILIONの現場は、放送技術とIPネットワーク技術の2つの異なる専門家が、あたかも寒流と暖流が出会う「潮目」となり、そこに集まる豊富なプラクティンと言える「経験知」の交流から新たな放送IPシステムを「繁殖」させているのではないかと。そんな斬新な勢いを取材者として感じた。

なお、IP PAVILION関連技術についてのリレーセミナー〔表〕をInter BEEではオンライン開催する。

(レポート・写真:吉井 勇・本誌編集部)



●真剣な作業から



コミュニケーションは名刺交換から始まる

〔表〕IP PAVILIONオンライン・リレーセミナー リスト

時間	11月17日(水)	11月18日(木)	11月19日(金)
13:00 - 13:20	IP-101 改めて整理する「SDIからIP」の技術特性と課題 小山 智史: 日本放送協会 放送技術研究所	KN-202 基調講演 (13:00 ~ 13:40) RSK山陽放送「ST 2110」規格導入から運用までの全経験 難波 昭一: 山陽放送(株) 小貝 肇: ソニーマーケティング(株)	IP-301 リモートプロダクションの経験から見た回線選択の考え 大崎 雅典: (株) テレビ東京
14:00 - 14:20	IP-102 IP標準規格の概要と世界の導入例に見る考え 菅原 正幸: 日本電気(株)	IP-202 IPシステム構築における「オーケストレーション」の実際 村上 真人: 伊藤忠ケーブルシステム(株)	IP-302 IPシステム構築における「ネットワークインテグレート」の生かし方 榎戸 真哉: ネットワンシステムズ(株)
15:00 - 15:20	IP-103 IP同期技術「PTP」の基本解説 長谷川 幹人: セイコーソリューションズ(株)	IP-203 Audio IP規格の特性を生かした導入と運用を考える 市東 聡一: タムラ製作所(株)	IP-303 PTPを利用した放送TS信号のIPライブ伝送～IP網によるSFNの実現に向けて～ 岡崎 智彦: (株) 毎日放送
16:00 - 16:20	IP-104 IP同期技術「PTP」の解説(応用編) 辻 真由美: リーダー電子(株)	IP-204 リモートプロダクションの方法と必要な準備 飯田 智之: フジテレビジョン(株)	IP-304 RPTP (PTP over WAN) による遠隔同期技術 中村 和則: RPTP Alliance / (株) メディアリンス
17:00 - 17:20	IP-105 IPライブ制作における制御技術の概要と最新動向 櫻木 僚一: AMWA Board Member / ソニー(株)	IP-205 回線について考える～IPリモプロさらなる普及のために～ 北島 正司: 日本放送協会	